

経営比較分析表

神奈川県 綾瀬市

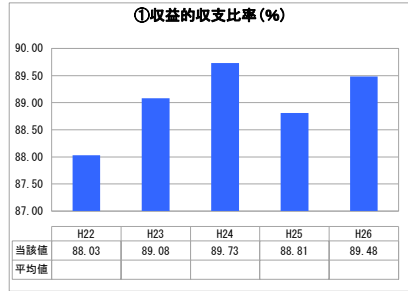
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	
法非適用	下水道事業	公共下水道	Bc2	
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	該当数値なし	94.29	83.28	2,060

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
85,414	22.14	3,857.90
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
80,442	10.79	7,455.24

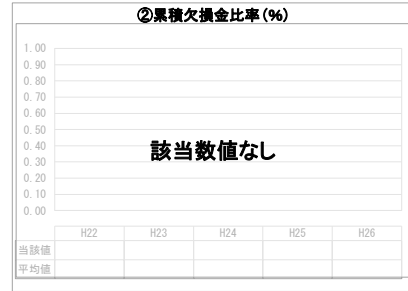
グラフ凡例

- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
- 【】 平成26年度全国平均

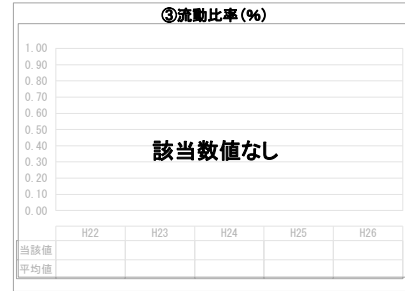
1. 経営の健全性・効率性



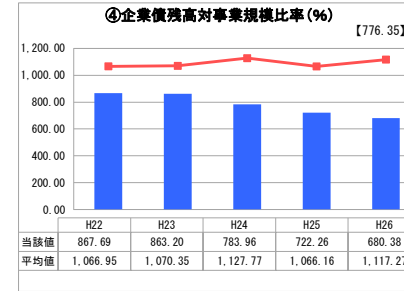
「単年度の収支」



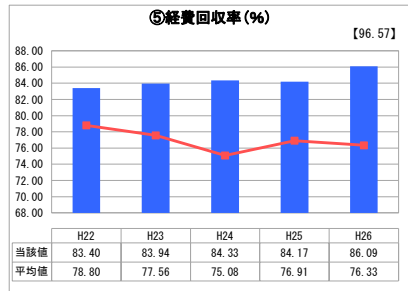
「累積欠損」



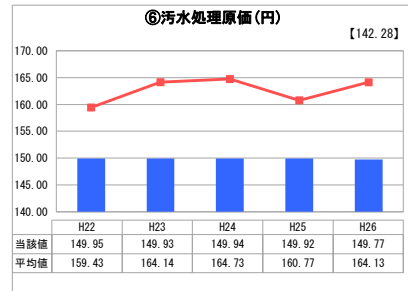
「支払能力」



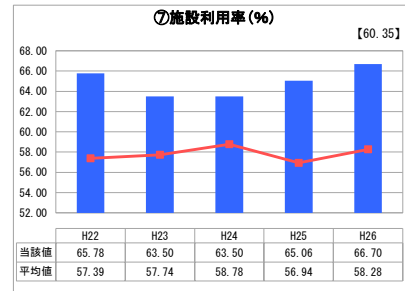
「債務残高」



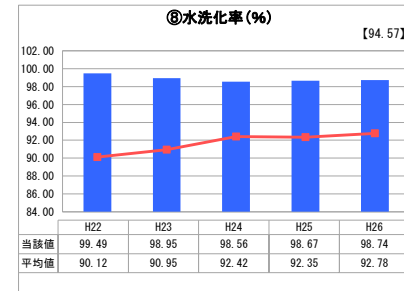
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

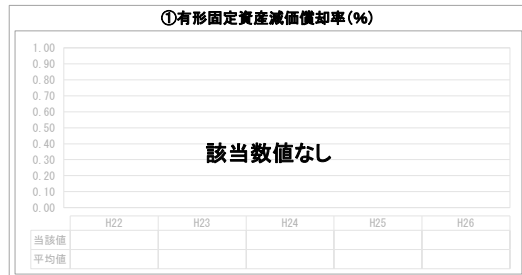


「施設の効率性」

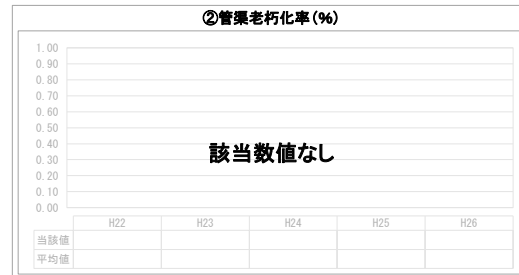


「使用料対象の捕捉」

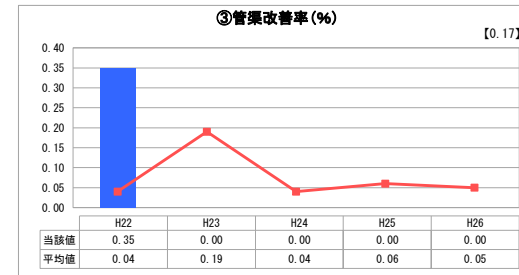
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管渠の経年化的状況」



「管渠の更新投資・老朽化対策の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

収益的経常収支比率89.48%、経費回収率86.09%となっておりますが、企業債務高は減少しており、地方債償還も平成20年度をピークに減少に転じています。このことに伴い、経費回収率も微増となっております。しかしながら、必要経費を使用料収入では回収できていません。単独処理場の運転・維持管理に包括的民間委託を導入するなどの効率化を図っておりますが、一般会計からの繰入金により下水道使用料の不足を賄っている状況が続いています。

2. 老朽化の状況について

昭和62年の供用開始から28年が経過し、施設の老朽化が進み、単独処理場、管きよとも改築・更新の必要性が高くなっており、このことから、施設の不具合による機能停止等を防ぐため、単独処理場、管きよとも長寿命化計画を策定し、改築・更新を計画的に進めています。

全体総括

普及率は94.3%となっており、本市の下水道事業は整備拡大から維持管理と改築更新へと移行してきております。このような中、上記のとおり施設の整備時の地方債については、残高と償還とも減少する状況が続くと推測されますが、今後は改築更新における地方債の償還が加わることとなります。このことから、公営企業会計制度を導入するほか、単独処理区の一部を効率の良い他の処理区へ編入することや使用料の改定を検討するなど、下水道事業が継続できる経営基盤の構築を目指します。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。

※ 平成22年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、企業債務高対事業規模比率及び管渠改善率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。